

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご 震災記念21世紀研究機構
ニュース

CONTENTS

- ①～② 淡路会議第26回開催結果
- ③～④ 研究調査部
- ④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和7年(2025) 9月

Vol.113

アジア太平洋フォーラム・淡路会議 最終回を開催しました

アジア太平洋フォーラム・淡路会議は、阪神・淡路大震災からの創造的復興が進む2000年に、淡路夢舞台において、安藤忠雄、五百旗頭真、貝原俊民の3氏が発起人となり、井植敏氏を代表理事に発足しました。それ以降四半世紀にわたり、新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされたときを除き、毎年夏に開催してきましたが、去る7月31日と8月1日に開催された第26回をもって終了することとなりました。

最終日には、国際フォーラムの時間を繰り上げ、最後に、参加者がこれまでの淡路会議の活動を振り返る時間を設け、淡路会議に功績のあった方々に感謝状を贈呈し、25年間の活動に終止符を打ちました。



会場全体

1 アジア太平洋研究賞授賞式



授賞式

1日目のアジア太平洋研究賞の授賞式では、本賞に輝いた留学生の周俊さんと、佳作の団陽子さんに牧村代表理事から表彰状が授与されました。また本賞のザヘラ モハッラムプールさんと佳作の西浦まどかさんは欠席でしたが、西浦さんについては推薦者である東京大学大学院の名和克郎教授が代理で受領されました。

選考理由説明では、片山裕選考委員長から、今回は応募数が33件とはじめて30件を超え過去最多になった、そればかりか論文の水準も例年以上で、審査委員は苦勞もしたが大変喜ばしいとの話がありました。



片山先生

2 国際フォーラム・記念講演

2日目の国際フォーラムでは、開会后、同志社大学の村田晃嗣教授と、ひょうご震災記念21世紀研究機構の阿部茂行参与から記念講演をいただきました。村田教授の講演「トランプ2.0の激震と世界」では、「我々々は、過去をあまりにも理想化し、今日を途方もない厳しい状況に直面しているかのようなトランプ

劇場を見せられているが、トランプ政権の基盤は脆弱であり、政策に矛盾があることも明らかである。政権はあと3年半、時間のないのが泣き所となっている。一方で、トランプ政権は暴言を繰り返していても、2～3割はまともなことを言っている。トランプ主義を目的と手段に分けてみると、目的は過半数の賛成を得ていて、手段に6割以上が反対している。手段にオータナティブが提示できれば、トランプ主義は変わるかもしれない。トランプ政権に対処するには、判断を急がずに曖昧さに耐える能力、ネガティブ・リテラシーを培うことが求められる」と指摘されました。最後には、今後も続くこととなった研究賞に触れられ、「スーパーマンの五百旗頭先生は戻らないが、我々が努力を続けて行けば必ずやり遂げられる」と意気込みを語られました。



村田先生



阿部先生

続いて阿部参与の講演「アジア太平洋地域と日本の経済の30年」では、対米経済関係について固定相場制の時代から説き起こし、日米貿易摩擦に続いて米中貿易摩擦へと展開し、これらをきっかけとして、メキシコやASEAN諸国などに生産拠点が移転していった経緯に触れた後、グローバルサプライチェーンでは、アメリカが担う研究開発やマーケティングとは異なり、生産工程の中間にあたる加工・組立ては付加価値が低いことなどを説明されました。またトランプが関税に訴えたのは、アメリカが世界の貿易赤字を1国で引き受けている状況ではあったものの、これは財の貿易だけであって、サービスの貿易ではアメリカは赤字でないこと、さらにトランプは、為替レートの引き下げをねらってFRBに金利引き下げを働きかけていることなど、トランプ関税の背景にある事実についても解説いただきました。阿部参与は、これらを踏まえて、日本のなすべきこととして、アメリカだけに依存しない経済安全保障のほか、Tobin税の導入やGAFAへの課税についても言及されました。

3 国際フォーラム・基調提案

午後からは、3テーマについて3名の講師から基調提案をいただきました。

1つ目の、「対立の世紀は乗り越えられるか」では、講師の吉岡桂子さんが、初めて北京へ特派員として派遣された頃、中国とは競争、共存のどちらかという選択肢はないという五百旗頭先生の教えを胸に、両方を両立させようと取材に臨んだ経験を語られました。



吉岡講師



上野先生

続いて、上野千鶴子東京大学名誉教授による「日本社会とジェンダー：女性を活かさない社会に未来はない」の講演では、先生は、1985年の男女雇用機会均等法、労働者派遣法、国民年金第3号被保険者制度の創設の3点改革は、結局、女性を排除する効果を持ったのだと断じられました。

最後は、阪神・淡路大震災から30年に当たる本年まで、創造的復興の推進から復興のフォローアップにわたり長らくご指導をいただいていた室崎益輝神戸大学名誉教授による「震災30年の復興を振り返り、これからの災害に備える」の講演でした。先生は30年を振り返って、「市民活動や防災教育は進んできたけれど、阪神・淡路の教訓である『市民の助け合い』が社会に実装されたわけではない。いま地球温暖化に伴い災害が進化している中で、防災は遅れており大転換が必要である。それには、複眼的視野を持ち、ゼロリスクを求めるのではなく、人間中心の仕組みに切り替えていく必要がある」と説かれました。



室崎先生

4 25年の振り返り

分科会報告の後、最後の1時間は、参加者全員で25年を振り返る時間としました。

まず、淡路会議の25年のあゆみを迎えるスライドを上映しました。2000年に発足した淡路会議では、国内外から様々な個性が集い、激動する国際経済への対応、環境、資源・エネルギー問題、IT(情報技術)、災害への備えなど多岐にわたるテーマについて議論するとともに、多文化共生社会の実現を目指して、提言と対話を積み重ねてきました。

これからも淡路会議の取り組みを受け継いで、様々な地域で様々な人々により国境を越えた交流の輪が広がることを願いつつ、最後にこれまで献身的に淡路会議を導いてこられた五百旗頭先生に追悼の誠と深甚の感謝を捧げました。

その後、淡路会議の25年間の活動に対する功労者の皆様

方に、牧村代表理事から感謝状が贈呈されました。まず創設以来、長年にわたり代表理事としてご指導いただいた井植敏さんと、共催者として淡路会議を共同運営していただいた公益財団法人井植記念会様には、ご子息の井植記念会理事の井植敏雅さんにお受け取りいただきました。

次に、前代表理事で昨年3月に急逝された故五百旗頭真さん。五百旗頭先生は発起人として設立に関われ、研究委員会委員長、研究賞選考委員長として、また井植敏さんの後の代表理事として、淡路会議および研究賞の企画運営に中心的役割を果たしていただきました。感謝状はご息女の安井さやかさんに受領していただきました。

続いて、阿部茂行企画研究委員長と、片山裕研究賞選考委員長にお受け取りいただきました。両先生は会議発足当初から五百旗頭先生とともに会議の企画運営に携わるとともに、五百旗頭先生亡き後は前面に立って会議を引っ張ってきていただきました。

そして、淡路会議の趣旨に賛同し協賛をいただいた、UCCジャパン株式会社、和田興産株式会社、シスメックス株式会社の各社の代表の方に感謝状をお受け取りいただきました。

受賞者のあいさつでは、井植敏雅氏が「父はこの会議で何かを発信しようと本気だった。ここで積み上げた成果が次世代への、世界へのメッセージとなることを願います」と述べられました。また、片山裕選考委員長は、「あれだけの人たちが議論して淡路からメッセージとして発信したことは奇跡のようなことだった。五百旗頭先生のご努力と影響力があっただけで成し遂げられたことである。自分としても人生の大事な時期にこの会議の一員となれたことに感謝している」と述べられました。



井植理事長



安井さやか氏

最後に、阿部茂行企画研究委員長から、この日の総括とともに25年間の締めくくりのあいさつをいただきました。先生はまず、「今感無量の気分である。五百旗頭先生からのお誘いで淡路会議に参加して、その後ずっと兵庫県と関わることができて嬉しかった」。最終回の活動を総括していただいた後、最後に、「淡路会議は今回で終了となるが、幸いなことに研究賞は残る。多文化共生の概念、アジア太平洋の枠組み、兵庫県からの発信を守っていきいたい。自分も最初から関わってきて、いまフリーアゲイン、五百旗頭先生の遺志を受け継いで、何か貢献できないか心の中に芽生えている」と力強い言葉で締めくくっていただきました。



令和6(2024)年度の研究成果について

1 南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究

機構の最大のミッションである巨大災害に備える研究として4つの分科会に分かれて、河田恵昭・人と防災未来センター長の総括のもと、「南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究」を3年間(令和4～6年度)行ってきました。

(1) 南海トラフ地震部会(まちづくり分科会・停電分科会)

主任研究員 朴 延



「まちづくり分科会」は、越山健治・関西大学教授をリーダーに8人の建築・土木専門の研究者で構成されています。この分科会では、南海トラフ巨大地震における被害想定と復興戦略を、人口動態や建物統計に基づき複数のシナリオで検討しました。

仮住まい期における住宅の供給量と域外避難の程度を反映したシナリオ分析を行ったうえで、恒久住まいの再建段階に至った際の、「全面再建」「都市部集中」「人口減少地域回避」の3つのシナリオを比較しました。供給余力の偏在や地域間格差を浮き彫りにし、再建支援や広域計画の必要性を示しました。

「停電分科会」は、奥村与志弘・関西大学教授をリーダーに、

5人の研究者で構成されています。この分科会は、南海トラフ地震において、人的・社会的・経済的被害の相転移をもたらす要因を「長期停電」の視点から明らかにすることを目指しています。具体的には、被害が劇的に拡大するような停電の期間、場所、発生形態などを抽出・整理し、被害の質的な変化の引き金となる条件を探っていきました。

相転移の問題については、相転移を未然に防ぐ、あるいは相転移後の影響を最小限に抑えるための具体的な対策を提案することを目指して、令和7年度以降も、河田恵昭・人と防災未来センター長を総括とした研究活動を続けていきます。

(2) 首都直下地震部会(初動対応分科会・BCP分科会)

主任研究員 米川 安寿



首都直下地震部会は、中林啓修・日本大学准教授をリーダーとした4人の研究者による「初動対応分科会」、渡辺研司・名古屋工業大学教授をリーダーとした7人の研究者による「首都圏直下型地震を見据えた大都市圏の社会経済を支えるBCPの在り方分科会」(略称、BCP分科会)の2つの分科会で構成されました。

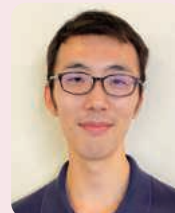
「初動対応分科会」では、首都直下地震発生時の初動対応について23区および首都圏について調査検討を行いました。23区については研究会で実施したアンケートを活用し、防災や避難に関する住民の意識に関する実証分析と、木造住宅密集地における火災の課題や消防団員の充足状況の分析を行いました。首都圏については医療・福祉施設の災害時の課題

を、特に水供給の観点から検討、また自衛隊派遣に関して自治体連携の点から検討し、報告書をまとめています。

「BCP分科会」では、都市機能を支える重要インフラ事業者・自治体等のBCP(事業継続計画)の戦略策定および意思決定に資する情報を共有する官民連携の枠組みの在り方をテーマとして研究が行われました。被害規模と企業活動への影響についてシナリオを作成して想定し、BCPIに生かす手法、帰宅困難者向けの一時避難所利用の課題、従業員も被災している場合の事業継続の課題、また企業個別のBCPを超えて地域や国の政策レベルで連携することの必要性といった観点でまとめています。

2 南海トラフ地震発生時における行政の在り方に関する研究

主任研究員 田中 豊



本研究会は、自治体の防災担当部局へのヒアリングや現地調査に基づいた研究を進めてきました。

実地調査では、高知県、愛知県を訪問しました。

高知県では事前復興計画策定の取り組みの後押しに関するお話を伺いました。高知市では広域避難所の確保に取り組んでいる現状を、黒潮町では避難施設の維持管理の財源が課題であることをお聞きしました。

愛知県では、災害時の基幹的防災拠点、広域物資輸送拠点、行政機能支援を念頭に置いたロジについて説明いただきました。弥富市はゼロメートル地帯が大部を占めることから、全市民が避難できる避難施設の確保について、南知多町では、職員の約半数が町外居住者であることから、職員の参集が課題であることをお聞きしました。

あわせて、能登半島地震を受けて関係者へのヒアリングも行いました。三重県は中部ブロックの幹事県として、発災直後から現地入りし、応援団体の調整を行うとともに、最も被害が大きかった輪島市の総括支援を担いました。能登町に入った滋賀県のリエゾン職員にも同席いただき、応援職員の業務についてのお話を伺いました。

また、石川県から能登町役場に派遣されたリエゾンの幹部職員、長期的に輪島市の行政支援に入った大阪府吹田市の危機管理室から、現地での行政機能の状況に関するお話を伺いました。

今年度は引き続き、報告書のとりまとめを行っていきます。

3 ポストコロナ社会に関する政策研究

新型コロナウイルスの感染拡大は、過去に発生したパンデミックや巨大地震の際と同様、社会に大きな影響を与えました。しかし、それまで災害において想定されていた危機や対策をはるかに超えた未曾有の経験となり、しかも約3年も続く長期戦となりました。

これを契機として、災害における社会のあり方、コミュニティのあり方、行政のあり方等にいろいろな課題が投げかけられることになりました。それ故ポストコロナに関する研究課題は極めて幅広いですが、同研究会は感染症拡大という「新たな災害」に対する行政のあり方について研究を進めています。

主として、感染症パンデミックのみならず自然災害対策においても適用可能な、自治体の危機管理体制について検証

主任研究員 金 恩貞



と提案をしていくことを目指しています。そのための研究手法として、今後、基礎自治体を対象としたアンケート調査を実施する予定です。現在、その準備段階として基礎自治体でのヒアリング調査を進めています。

これまで、姫路市、神戸市、加古川市、吹田市を対象にヒアリング調査を行ってきました。また、行政支援と産業界をつなぐ役割を果たした姫路商工会議所においてもヒアリング調査を行いました。「保健所を設置しているか否か」「中核市、政令市、新規中核市」など、いろいろな背景を持っている基礎自治体でのヒアリング調査を重ね、比較検討可能なアンケートの設問案を絞っていきます。

こころのケアシンポジウム参加者募集

「災害で大切な人をなくされた方への支援」をテーマに、医療・支援・当事者の立場から講演とパネルディスカッションを行い、悲しみに寄り添う支援のあり方を共に考えます。会場参加・オンライン視聴ともに、どなたでもご参加いただけます。

- ◆ 日 時 = 12月17日(水) 13時30分～16時30分
- ◆ 会 場 = 兵庫県こころのケアセンター 大研修室
- ◆ プログラム

○第1部 基調講演

「災害による喪失と悲しみ(グリーフ)への支援」

瀬藤 乃理子(兵庫県こころのケアセンター上席研究主幹)

○第2部 パネリスト講演

①「医療を受診する災害遺族の支援について

～福知山線脱線事故遺族の事例を中心に～」

(神戸赤十字病院心療内科部長 村上 典子)

②「東日本大震災後、アルコール関連問題がある地域の遺族への支援について」

(相馬広域こころのケアセンター長 米倉 一磨)

③「兵庫県こころのケアセンターで悲嘆の専門治療を受けるまで、そしてその後」

(阪神・淡路大震災遺族 高井 千珠)

○第3部 パネルディスカッション

第2部登壇者の村上氏、米倉氏、高井氏、および兵庫県こころのケアセンター加藤センター長、瀬藤上席研究主幹による公開討論

- ◆ 定 員 = 会場50名及びZoom配信200名
(先着順。定員になり次第締め切り)

- ◆ 参加費 = 無料

- ◆ 申し込み方法 = 会場参加、オンライン配信視聴ともに、ホームページの申し込みフォームからお申し込みください。

https://www.j-hits.org/form2/symposium_r07/

※1. ホームページからダウンロードしたチラシ裏面の参加申込書にご記入いただき、FAX等でお申し込みもできます

※2. Zoom配信希望者は原則ホームページの申し込みフォームからお申し込みください。

- ◆ 申し込み・問い合わせ

兵庫県こころのケアセンター 事業課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール jigyoku556@j-hits.org
<https://www.j-hits.org/>



「月刊神戸っ子」は、
神戸・阪神間のより豊かで美しい暮らしのための
道しるべです。

■定価 500円(本体 455円+税10%)
■発行 服部プロセス株式会社 神戸っ子出版事業部
神戸市長田区東尻池町2-9-17 TEL.078-686-0585



公式ホームページ



公式インスタグラム

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展「リビング・モダニティ 住まいの実験 1920s-1970s」

本展覧会では、20世紀に始まった住宅をめぐる革新的な試みを、衛生、素材、窓、キッチン、調度、メディア、ランドスケープという、モダン・ハウスを特徴づける7つの観点から再考します。そして、特に力を入れてご紹介する傑作14邸を中心に、20世紀の住まいの実験を、写真や図面、スケッチ、模型、家具、テキスタイル、食器、雑誌やグラフィックなどを通じて多角的に検証します。

■会 期 = 9月20日(土)~2026年1月4日(日)

■観覧料 = 一般 1,800(1,600)円、大学生 1,000(800)円、
高校生以下 無料、70歳以上 900(800)円、
障害者手帳等をお持ちの方(一般) 450(400)円、
障害者手帳等をお持ちの方(大学生) 250(200)円
※()内は団体料金 ※一般以外は要証明書

◎休館日 = 月曜日

[ただし、10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月24日(月・振休)は開館、
10月14日(火)、11月4日(火)、11月25日(火)、12月31日(水)、1月1日(木)は休館]

◎開館時間=10時~18時 ※入場は閉館の30分前まで

※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ
(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください

◎問い合わせ TEL 078-262-1011



フランク・ゲーリー フランク&ベルタ・ゲーリー邸 1978年

©Frank O. Gehry. Getty Research Institute, Los Angeles (2017.M.66)

JICA関西

国際協力?SDGs?JICAかんさい地球ひろば!

JICAかんさい地球ひろばでは、SDGsや国際協力、世界・異文化について理解を深め、考え、動き出すきっかけづくりのための、見て・触れる常設展や企画展を無料でご覧いただけます。



大阪・関西万博を機に展開中の「ひょうごフィールドパビリオン」に認定されているJICAかんさい地球ひろばで、SDGsの達成に向け自分でもできることについて考えてみませんか。展示室では10月より「難民」をテーマにした企画展を開催します。また、併設しているJICA関西食堂では、世界の料理をご提供しています。皆さま、お気軽にお立ち寄りください。



JICA関西
Instagram

■問い合わせ

TEL 078-261-0341

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/index.html>



JICA関西HP

新たな映像コンテンツが完成しました!

このたび当センター1階の大型LEDビジョンで視聴いただける「SDGsが達成された世界」と「SDGsが達成されなかった世界」の2つの映像コンテンツが完成しました。それぞれの2050年の世界を観て、SDGsの達成期限である2030年までに自分にできることを考えてみませんか。



JICA関西食堂について

■営業時間:

(昼)11時半から14時まで (夜)17時半から21時まで

※各終了30分前ラストオーダー

■定休日: 年中無休(年末年始を除く)

※メニューや営業日時詳細はJICA関西食堂ホームページをご確認ください。

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/office/restaurant/index.html>

日本赤十字社 兵庫県支部

商品やサービスを活かした社会貢献をご存じですか

日本赤十字社は、「人のいのちと健康、尊厳を守る」活動を共に推進くださる企業・団体のパートナーを求めています。

商品やサービスに「寄付」という付加価値を与え、消費者へ購入による満足感と社会への参加意識の醸成を図り、ついでに、サステナビリティ活動の「見える化」によるブランドイメージの向上を図りませんか。

当支部では、商品のパッケージやサービスのチラシ等に、「日本赤十字社への寄付」を表示し、売り上げの一部を寄付いただく仕組みを作ってください。企業・団体様を募集しております。

「人間のいのちと健康・尊厳を守る」赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって成り立っています。活動資金へのご協力をよろしくお願いいたします。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/> ➡

※日本赤十字社の活動資金にご協力いただくと、金額に応じ、税制上の優遇措置や紺綬褒章・大臣表彰等の対象となります



◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫 検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

表示例



日本赤十字社

売上げの一部は日本赤十字社の活動資金として寄付されます。

夏休み防災未来学校2025レポート

子どもから大人まで楽しみながら防災・減災について学ぶことができる「夏休み防災未来学校2025」を7月19日(土)～8月17日(日)に開催し、延べ約5,000名が参加しました。

例年人気の「ペットボトル地震計」「手作りラジオ」等の工作ワークショップのほか、本年度は震災30年企画として「はじめて知る・学ぶ1995.1.17阪神・淡路大震災」などを開催。幅広く自然災害や防災・減災について学んでいただく機会となりました。

1 未来を創る!建設のチカラ展

西館1階ロビーを会場として、災害から街を守る建設技術を学ぶ体験型展示を初開催。モニターを見ながらラジコン重機を遠隔操作することで、実際の現場でも遠く離れた安全な場所から重機を動かすことができることを学ぶ「建設機械の遠隔操作体験」などから、災害から街を守る「建設のチカラ」について知る機会となりました。



2 ゲリラ豪雨マスターになろう!

オリジナルのすごろくを使ってゲリラ豪雨への備えを考えるワークショップを開催。ゲリラ豪雨が起きるときにどのような準備をすればいいのかなど様々な設問に対して参加者がそれぞれ意見を共有することで、防災・減災の知識を身につけることができました。



3 なんでもつかめる?ロボットハンドをつくろう!

シリリングやゴム風船を用いて、手作りでロボットハンドを作るワークショップを開催。自由に形が変わるロボットハンドの仕組みを理解するとともに、日常から災害時まで様々な場面で活躍するロボットについて学びました。



4 絵手紙を描いて気持ちを伝えよう!

絵手紙独自の筆の持ち方を習い、好きなモチーフを選んで暑中お見舞いなど大切な人に送る絵手紙を描きました。小さな子供から大人まで楽しく参加しました。



5 はじめて知る・学ぶ1995.1.17阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災から30年経ったこの機会に改めてどのような災害だったのかを学ぶプログラムを実施しました。小学生だけでなく、震災の記憶がほぼない保護者も多く参加しており、親子で地震や防災について学ぶ機会となりました。



6 サバイバル!手作りラジオに挑戦しよう!

ダンボールやクリップなど身の回りのものを使って、電池を使わないシンプルなラジオを手作りするワークショップを開催。実際に手作りラジオを用いてラジオを聞いてみるだけでなく、ラジオが非常時にも役立つことを学びました。



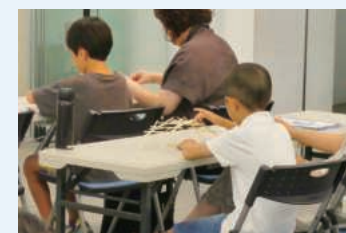
7 トカゲちゃんといっしょに“ペット防災”クッキーみたいなお香づくりも!

災害時のペットとの避難について学ぶプログラムを開催。家の近くの避難所がペット受け入れを行っているのか等、事前に確認しておくべきことなどを学びました。



8 ダヴィンチ橋をつくろう!

体験展示「未来を創る!建設のチカラ展」関連ワークショップとして、くぎや接着剤を使わず木の棒を組み合わせて作る「ダヴィンチ橋」作りを行いました。丈夫な橋の構造を学びました。



9 ペットボトル地震計をつくろう!

NPO法人阿武山地震・防災サイエンスミュージアムの協力で、ペットボトルや乾電池など身近な素材を使って本物と同じ仕掛けのペットボトル地震計を作るワークショップを開催。実際に机の揺れを用いて波形を取ること、地震計の原理を学ぶことができました。

**10 人と防災未来センタースペシャルガイドツアー**

アテンダントが常設展示のポイントを案内するスペシャルガイドツアーを実施。阪神・淡路大震災がどのような災害だったのか、また、もし自分が災害に遭ったときにどう行動すればいいのかを学びました。



夏休み防災未来学校2025 「なりきり!震災資料専門員 ～風景から写真撮影現場を推理せよ!～」

資料室では震災資料専門員が取り組んでいる業務の体験を通して、阪神・淡路大震災について学ぶと同時に、センターのミッションのひとつである「資料収集・保存」の意義や方法について考えてもらいました。

「なりきり!震災資料専門員～風景から写真撮影現場を推理せよ!～」では、グループごとに写っている風景や当時の地図などから現在の場所を調査して、調査結果をまとめた冊子を作成しました。また、普段は立ち入ることのできない収蔵庫を見学し、震災資料の保存状況を見て、震災当時の新聞を閲覧しました。

現在、資料室では、参加者が実際に作成したワークシートやプログラムの様子の写真を展示しています。



(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 **阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター** <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:650円(500円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(250円) 大学生:200円(150円)

高校生・中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料

(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日
※ゴールデンウィーク期間中(4月28日から5月5日まで)は無休

交通**鉄道**

- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

バス

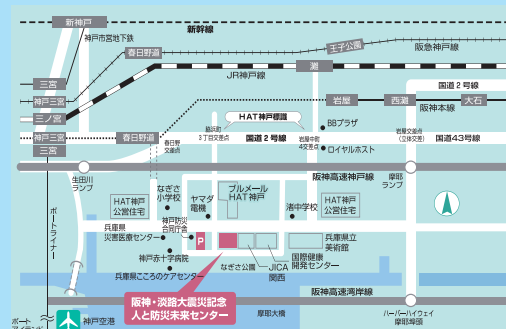
- ・三宮駅前から約15分
- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり

メルマガ

センターの活動や企画展開催の情報を配信中

友の会

個人会員 3,000円/年 法人会員 一口50,000円/年



#人と防災未来センター

令和7(2025)年度春期 災害対策専門研修マネジメントコースを開催しました

地方自治体職員などを対象とした「災害対策専門研修」マネジメントコースを平成14(2002)年度から実施しています。災害対策実務の中核を担う人材の育成を目的とし、阪神・淡路大震災の教訓を学習することを重点としつつ、最新の研究成果も取り入れ、能力に応じた体系的・実践的なカリキュラムです。これまでに、延べ4,248人が修了し、受講者から高い評価を得ています。

今回は、防災業務初任者を対象としたコースと幹部職員を対象としたコースの2コースを会場にて実施しました。

アンケートでは、「3日間の研修で災害対策に必要な基礎的な知識を得ることができ、とても有意義な時間だった。」「他自治体の職員の皆さんとも知り合うことができ、全国に仲間ができたようでとても貴重な研修となった。」「講義を通して様々な知見を得、再確認することができ、また、グループワーク等を通じて、他の地域の自治体職員の意見や現状に関する情報を得ることができたため、大変収穫があった。」「防災についての全体的な知識、行政がやるべきことが少し理解できたことと、他市の皆さん、特に女性職員の皆さんが同じ思いを抱えて業務に当たられていることがわかって安心できた。」「ワークショップは臨場感があり、大変有意義だった。」「防災の本質、防災の最新のスキルを知ることができるとともに、業務への取り組み方を見直すいいきっかけになりました。」等の意見を頂きました。

コース名	日 程	修了者数
ベーシック	6月4日(水)～6月6日(金)	70人
アドバンスト／防災監・危機管理監	6月10日(火)～6月11日(水)	25人
合計(延べ)		95人



講義やワークショップの様子



Hem21 NEWS
vol.113

令和7年9月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)

<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580

FAX 078-262-5587

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

▶学術交流部

TEL 078-262-5713

FAX 078-262-5122

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください